

2023年2月11日(土)~2月17日(金)

渋谷 ユーロスペース
東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 3F



『白い牛のバラッド』

(ベタシュ・サナイハ 2020) × 村山木乃実



『海と毒薬』

(熊井啓 1986) × 伊藤真美



『愛は降る星のかなたに』

(斎藤武市 1956) × 太田昌国



『悪は存在せず』

(モハマド・ラスロフ 2020) × 中村菜穂



『チェチェンへようこそーゲイの粛清』

(デヴィッド・フランス 2022) × 石川大我

第12回死刑映画週間 国家と戦争犯罪と死刑

映画(監督 制作年) × 語る人(一回限り、裏面参照)

国家はどんな理屈を使っても、「人殺し」としての戦争を始めてしまう。ウクライナ戦争は私たちに、改めてその事実を教える。戦争犯罪を裁く必要性もあるだろうが、戦争そのものを否定する立場がますます重要だ。国家は死刑制度を通して、「人殺し」の権限を独占している。死刑執行の裁量権を持つ法相が、法相は地味な仕事で、死刑のはんこを押した時くらいしかテレビに出られない、お金も集まらない、と嘆いた。戦争でも死刑でも、兵士や公務員に他者の殺害を命じる立場にある者は、こんなにも無責任だ。今回の7本の映画は、そんな人間社会の過去と現在に異議を発し、国家に万能の権限を与えてよいのかと問いかける。



『抗いー記録映画作家 林えいだい』

(西嶋真司 2016) × 西嶋真司



『顔のないヒトラーたち』

(ジュリオ・リッチャレッリ 2014) × 柳原伸洋

A 『白い牛のバラッド』



2月11日(土) 11:00
12日(日) 16:40
13日(月) 13:30
14日(火) 19:00
16日(木) 11:00

監督脚本=ベトナム・サナイハ
マリヤム・モガッダム

2020年/イラン、フランス/DCP/105分
出演=マリヤム・モガッダム アリザフ・サニファム ブーリア・ラヒミサマ

【物語】テヘランの牛乳工場で働きながら幼い娘ビタをひとりで育てるミナは、1年前に夫のババクを殺人罪で死刑に処せられた。そんな時に、裁判所から信じがたい事実を告げられる。夫の犯したとされる殺人事件を再捜査した結果、別の人物が真犯人ということがわかったという。担当判事に謝罪を求めると門前払いされてしまう。この現実にあえぐミナに、やさしく接してきたのが、夫の旧友だという男性レザだった。しかし、レザはある重大な秘密を抱えていた。やがてミナは、想像さえできないようなその真実を知ることになるのだが...

D 『悪は存在せず』



2月11日(土) 18:40
15日(水) 18:30
17日(金) 16:00

©Film Boutique

監督脚本=モハマド・ラスロフ

2020年/イラン、ドイツ、チェコ/BD/151分
撮影=アシュカン・アシュカニ 音楽=アミル・モルクックポーア
出演=エーサン・ミルホセニ シャガフエグ・シロウア

【物語】死刑をめぐる4つの物語からなるオムニバス映画である。(第1話悪は存在せず) 地下の駐車場から車で長い螺旋状の道路を上り、車を走らせ町まで行く。そこで妻や娘を乗せ家に戻る中年男性。翌朝早く再び車に乗って仕事場へ行く。その淡々と仕事をこなすかに見える彼の職業はいったい何? (第2話 あなたはできると彼女は言った) では、死刑執行を拒む兵士を描き、(第3話 誕生日) は、悪人に会いに行く兵士が出会う現実を、第4話 (私にキス) でイランの人々を取り巻く辛い現実が立ちあらわれる。2020年第70回ベルリン国際映画賞で金熊賞を獲得した作品。第33回東京国際映画祭ではワールドフォーカス部門で上映された。

E 『チェチェンへようこそーゲイの歳暮』



2月12日(日) 11:00
13日(月) 19:00
14日(火) 13:30
16日(木) 13:30

©MadeGood Films.com

監督=デヴィッド・フランス

2020年/アメリカ/DCP/107分
製作総指揮=ジョー・トムチン プロデューサー=アリス・ヘンティ
撮影・プロデューサー=アスフォルド・クローロ

【物語】ロシア支配下のチェチェン共和国で国家主導の「ゲイ狩り」が行われている。同性愛者たちは国家警察などから拷問を受け、殺害され、社会から抹消されている。決死の国外脱出を試みる彼らと、数出に奔走する活動家たちを追ったのがこの作品。助けを求める性的少数者の男性や女性が登場する。彼らは率直に勇気をもって自らの経験を語っている。フランス監督は命の危険に晒された避難者の身元を保護するため、彼らの声を変え、偽名を採用している。被害者の命を守るため、フェイスブック技術を使って身元を特定不能にしている。これはドキュメンタリー映画としては初の試み。この方法で顔を変えることにより、感情のある印象的な映像が生まれ、避難者らは報復を恐れず語ることができている。

◆各回入れ替え制

*一部の作品の国・音に不備がある場合もありますので、ご了承ください。
*やむを得ない事情により作品及び上映時間を変更される場合がございます。

11日(土)	12日(日)	13日(月)	14日(火)	15日(水)	16日(木)	17日(金)
A 11:00	E 11:00	C 11:00	B 11:00	G 11:00	A 11:00	F 11:00
B 13:30	F 13:30	A 13:30	E 13:30	C 13:30	E 13:30	B 13:30
上映終了後トーク			G 16:00	F 16:00	B 15:50	F 16:00
伊藤真美	西嶋真司	E 19:00	A 19:00	D 18:30	G 18:50	C 19:10
C 16:40	A 16:40	上映終了後トーク				
D 18:40	G 19:00	石川大我	村山木乃実	中村菜穂	柳原伸洋	太田昌国

ゲスト紹介: 伊藤真美=花の里クリニック院長/西嶋真司=映画監督/石川大我=参議院議員/
村山木乃実=現代イラン文学研究者/中村菜穂=イラン文学研究者/柳原伸洋=東京女子大学准教授/
太田昌国=評論家

協力: アット エンタテインメント株式会社/榎グループ現代/セテラ インターナショナル/榎トレノバ/日活株式会社/ロングライド/Film Boutique/榎KADOKAWA/MadeGood Film

ユロスペース 渋谷区円山町1-5 (渋谷・文化村前交差点左折) TEL. 03-3461-0211
<http://www.eurospace.co.jp/>

B 『海と毒薬』



2月11日(土) 13:30
14日(火) 11:00
15日(水) 15:50
17日(金) 13:30

©滝島一郎

監督・脚本=熊井啓

1986年/日本/35ミリフィルム/123分
原作=遠藤周作 監督補=原一男 撮影=橋沢正夫 音楽=松村植三 美術=本村威夫 出演=奥田瑛二 渡辺謙 田村高廣 岸田今日子 根岸季衣 成田三樹夫 岡田英澄

【物語】1945年5月、敗戦の色はもはや隠しようもなく、九州にも每晚のように米軍機による空襲が繰り返されていた。帝大医学部研究生、勝呂と戸田の二人は、物資も薬品もろくに揃わぬ状況の中で、なかば投げやりな毎日を送っていた。そんな中で撃墜されたB29搭乗員8名が帝大医学部に連れてこられた。軍の命令により、生きたまま米軍捕虜を解剖する実験を行うというのである。この凄惨な実験に参加せざるを得ない勝呂は、良心の呵責にさいなまれる。そんな勝呂の様子をせせら笑う戸田も、極限状態で何も感情が湧かない自分自身を疑い始める。学部内での教授らの権力闘争も相まって、若き研究生らは翻弄されていく。

C 『愛は降る星のかなたに』



2月11日(土) 16:40
13日(月) 11:00
15日(水) 13:30
17日(金) 19:10

©日活

監督=斎藤武市

1956年/日本/BD/94分
脚本=猪俣勝人 糸永英一 撮影=横山実 美術=坂口武文
音楽=齊藤高順 出演=森雅之 浅丘ルリ子 山根寿子 高田敏江 金子信雄 浜村純 天本英世

【物語】スパイ・ソルゲ事件で連座し死刑になった尾崎秀実を主人公にした日活映画。売国奴と罵られながら夫婦の愛を貫いた尾崎(映役は坂崎)の人生を描く。尾崎(坂崎)役を森雅之、映画役を若き浅丘ルリ子が演じている。1941年10月、元内閣顧問の評論家坂崎秀実は、ソルゲを首魁とするスパイ事件に連坐、逮捕された。日本のために、と特高課の調べに彼は答えるのみである。夫は果して売国奴なのか、と疑問の拭いきれぬ妻家子に、夫婦の仲人杉浦弁護士は経緯を、1936年に坂崎がソルゲに会うところから語り始める。そして1944年の秋、ついに死刑の判決が宣せられる。

第12回 死刑映画週間

国家と戦争犯罪と死刑

上映作品

F 『抗い記録作家 林えいだい』



2月12日(日) 13:30
14日(火) 16:00
16日(木) 16:00
17日(金) 11:00

©RKB 毎日放送

監督=西嶋真司

2016年/日本/BD/100分
製作=RKB 毎日放送 制作=グループ現代 プロデューサー=川井田博幸 倉富清文 出演=林えいだい 朗読=田中泯

【物語】福岡県筑豊の旧産炭地には、今もアリアン時と呼ばれる場所がある。そこは、かつて日本に徴用された朝鮮人たちが炭鉱に向かう時に歩いた道である。記録作家・林えいだい、アリアン時を歩く。林は筑豊に渦巻く様々な歴史を記録してきた人だ。徹底した聞き取り調査を通して、戦争の悲劇や朝鮮人強制労働問題など、権力によって歴史の間に葬られそうな事実を掘り起こしてきた。83歳の林はガンに侵された。しかし、放射線や抗がん剤による治療を続けながら間に理もたれたい史実を追い求める。1945年8月9日、特攻隊員が日本軍に銃殺された。朝鮮半島の黄海道の出身の山本辰雄隊長(当時19歳)。国の命運をかけた重爆特攻機「さくら弾機」に放火したという罪で。国を背をせられた。林はこれを民族差別による冤罪ではないかと考え、真相に迫ろうとしていく。

G 『顔のないヒトラーたち』



2月12日(日) 19:00
13日(月) 16:00
15日(水) 11:00
16日(木) 18:50

©2014 Claussen+Wibke+Putz Filmproduktion GmbH / naked eye filmproduktion GmbH & Co.KG

監督=ジュリオ・リッチャレリ

2014年/ドイツ/DCP/123分
脚本=エリザベト・バルテル ジュリオ・リッチャレリ
出演=アレクサンダー・フェーリング フリーデリーケ・ベヒト

【物語】ドイツ人のナチスドイツに対する歴史認識を大きく変えたとされる1963年のアウシュビッツ裁判を題材にした物語。その裁判を開始するまでの苦闘を描いていく。1958年のフランクフルト。敗戦から10年以上が過ぎ、西ドイツでは多くの人々が戦争の記憶を忘れていた。ジャーナリストのグルニカが友人のキルシュから学校の校庭で見かけた教師が、キルシュがアウシュビッツ絶滅収容所に収容されていたときの元看守であるという情報を得る。グルニカはフランクフルトの裁判所に告発したが拒絶される。しかし、若い検事ヨハン・ラドマンがこの事件を担当し、検事総長フリッツ・ヴァーの支援を得て調査を開始する。ラドマンは、強制収容所で行われた犯罪を証言できる犯人や証人を探し始めるが、当局の頑強な抵抗にあいついていく。

入場料金

一般1,500円/大学・専門学校1,300円/シニア1,100円/
会員1,100円/高校生800円
前売券 5回券4,500円/3回券2,800円/1回券1,000円

ユロスペース劇場HPでは3日前から各回開始1時間前まで座席指定券が購入できます(各種クレジットカードのみ、詳しくはユロスペース劇場HPを確認ください)。前売券は3日前より劇場窓口にて座席指定券とお引き換えできます。オンラインでのご利用はできません。

